



# 国際会長ニュース

命の川を信じよう

第10号 2021年4月



国際会長 ジェイコブ・クリステンセン

このニュースは、1年を通して、毎月の寄稿記事や最新状況の報告によって、YMI会員の皆さまに情報をお伝えするためのものです。このニュースをお受け取りになった際には、できるだけ多くの会員の皆さまに転送いただければ幸いです。メンバーは、何も受け取らないよりも、重複して2部を受け取る方が良いでしょう。

## 会員の皆さまへ

国際会長ニュース4月号へようこそ。今号では、「ロールバック・マラリア」(RBM)、「コミュニティーサービス」(CS)、「Week4Waste」、「IHQからのニュース」と「良い話を伝えよう」を掲載しています。

ヨーロッパ地域では、他の地域と同様にワクチンの接種が開始されようとしています。北半球の春の訪れとともに、私たちは、より普通の生活ができることを楽しみにしています。デンマークで今使われている標語、「It will be good again(また良くなる)」に従いましょう。各区では、多くの活動、会合、研修が始まっています。その多くが顔を合わせて行われるようになってきたことを嬉しく思います。

現時点では、2020年7月1日以降、43の新クラブがチャーターされています。パンデミックにもかかわらず、本当に素晴らしく、価値のあることです。ワイズの友人を大切に、バーチャルや対面の集まり、クラブ、部、区、地域レベルでのさまざまな活動を大切にしている皆さんに、大きな感謝の気持ちを伝えたいと思います。皆さまは、まさに私たちに生命と明日への希望を与えてくれる存在です。命の川を信じましょう。

4月には多くのワイズメンが友人、ボーイスカウト、YMCA、コミュニティーの他の組織の人たちと一緒にゴミ拾いを行います。プロジェクトの目標は、世界中のワイズメンズクラブ合わせて150トンのゴミを集めることです。この目標を達成することができると思いますか？皆さまのご協力に、母なる地球もきっと喜んでくれることでしょう。本号では、ウルリック・ラウリドセン委員長によるWeek4Wasteプロジェクトについて詳しく紹介されています。



ジェイコブ・クリステンセン  
2020-21 国際会長

## IHQからのニュース 2021年4月

私たちのクラブ、区、地域がパンデミックの状況がもたらす課題を克服しつつあることを嬉しく思います。

韓国地域では、新型コロナウイルスのガイドラインに沿って、2021年3月4日から6日にかけて、次期理事研修と年央会議を対面で行いました。インド地域も、2月28日に地域議会を対面で開催しました。アジア太平洋地域では2月28日に、ヨーロッパ地域では3月13日にバーチャルで地域議会を開催しました。

クラブと区は、2021年3月31日までに後期分の国際会費を支払う必要があります。まだ送金されていない場合は、至急IHQに送金する必要があることにご留意ください。

TOFプロジェクト選考委員会は、7月中旬に開催される国際議会に推薦するために各申請書を審査します。

国際次期理事サミットは2021年5月29日～30日にバーチャルで開催され、すべての次期理事、次期地域会長に参加いただきます。

今年度の活動開始以来、43の新クラブを私たちの国際協会の家族の一員として迎え入れました。すべての新クラブは、国際協会のウェブサイトに掲載されています([新クラブ](#)を参照)。このリストには、ジンバブエのハラレにある新クラブも含まれており、アフリカのこの地域での私たちの存在感を復活させ、加盟国の総数は、72カ国となりました。

ワイズメンズクラブ国際協会の100周年記念基金は、大きな成功を収めていて、現在までに14名のメンバーが国際協会の名誉会員として表彰されていることを大変喜ばしく思います。3ページの特集および[国際協会ウェブサイト](#)をご覧ください。

国際書記長 ジョース・ヴァルギース

## ロールバック・マラリア(RBM)

### - 4月強調月間テーマ

4月25日は世界マラリアデーです。この日は、マラリアの予防と制御のために継続的な投資と持続的な政治的な責任を果たしていくことが必要であることを強調する機会です。すべてのワイズメンズクラブメンバーは、マラリアそのものおよびワイズメンズクラブ国際協会が、マラリアに対する協調的な行動のための世界的な枠組みである、「世界エイズ・結核・マラリア対策基金」(略称:「グローバルファンド」)と「マラリアを終わらせるためのロールバックマラリアパートナーシップ」をパートナーとして、マラリアと闘っている取り組みについて、クラブメンバーや一般の人々の中での認識を高めるようお願いいたします。



マラリアは、感染したメスのハマダラ蚊に刺されることで人に感染する、寄生虫によって引き起こされる生命を脅かす病気です。マラリアは、予防と治療が可能な病気です。ワイズメンズクラブ国際協会は、2008年から、マラリアとの世界的な闘いを支援するため、募金活動や啓発活動を行っています。

2019年には、世界YMCA同盟とともに、マルチステークホルダー・パートナーシップを構築し、「グローバルファンド」を支援しています。資金提供先の一つには「マラリアを終わらせるためのロールバックマラリアパートナーシップ」があり、同パートナーシップの取り組みの約60%が「グローバルファンド」からの資金提供を受けています。英国政府の国際開発部門であるDFIDは、ダブルマッチング(寄付金額の2倍)の資金を提供し、マラリア対策のために約100万米ドルの資金を開放しています。2020年12月、ワイズメンズクラブ国際協会は、世界のマラリア対策を強化するため、「グローバルファンド」に10万米ドルを拠出することができました。

区やクラブがリーダーシップを発揮してRBM募金キャンペーンを推進していることは心強い限りです。私は、国際事業主任として、アメリカと台湾での募金活動に参加しました。また、RBMを推進するためのデイブ・ホールのサポートにも感謝しています。クラブや会員の皆さまにRBMへの寄付を奨励するため、国際協会では100米ドル以上の寄付をしていただいた方に、その善行を称える「功労賞」を授与しています。

国際協会のRBM募金活動をサポートする[ビデオ](#)が制作されましたので、ご覧ください。

クラブメンバーや友人の皆様には、クラブや区を通じたRBM基金へのご寄付をお願いいたします。また、個人の方で直接寄付をされたい方は、[オンライン寄付ポータル](#)をご利用ください。

トニー・リャオ RBM 国際/地域事業主任

## Week4Waste

### - 4月強調月間テーマ

#### Week4Waste とは？

世界中のクラブが、2021年4月18日から25日の週に、地元でゴミ拾いをするを提案しています。



1月号でご紹介したように、多くのワイズメンがすでにこれに積極的に取り組んでいます。すべてのクラブがこのプロジェクトの準備を整えていることを願っています。私たちがゴミを拾うことで、個人やグループで散歩中にゴミを拾うことがどれだけ意味のあることかを皆に示すことができます。クラブは、地元のYMCA、ボーイスカウト、学校、その他の組織に連絡を取り、この活動に参加してもらうのも良いアイデアです。このイベントを利用して宣伝を行い、ワイズメンのロゴがはっきりと表示された服を着て、地元のメディアに連絡して報道してもらいましょう。写真は、強力なメッセージです。

私たちは皆、自然、特に動物のことを気にかけています。ゴミがどんどん捨てられていく中で、動物、鳥、魚はプラスチックやその他の危険なものを食べています。

私たちの目標のひとつは、自然の中にゴミを捨てないことがどれほど意味のあることかを人々に示し、そうすることで年齢を問わず人々の意識を変えていくことです。

ワイズメンズクラブ国際協会の憲法では、私たちは「アクティブ・メンバー」であるとされており、人類史上最大のゴミに対する市民行動に参加するのは当然のことでしょう。4月には、国際協会で作成した黄色いベストを着た多くのメンバーが、街、公園、海岸、森でゴミを拾う姿を見られることを期待しています。2021年9月18日に設定されている「ワールドクリーンアップデー」を含め、今後何ヶ月も継続していくことを願っています。

デンマークのリンケベングのジェイコブ・クリステンセン国際会長は、72カ国1,500のクラブに所属する27,000人の会員がそれぞれ5~6kgのゴミを拾うことで、自然を汚染している15万kgのゴミを母なる地球から取り除くことができるという目標を掲げています。

より良い明日をご一緒に作りましょう。そして、この世界をより住みやすい場所にしましょう。

ウルリク・ラウリドセン  
Week4Waste 委員会委員長



「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」



## 地域奉仕(CS)

地域社会に還元し、地域社会を強めることは、ワイズメンズクラブ国際協会所属のクラブの主要な目的です。定期的なボランティア活動や目標を定めた募金活動を通じて、私たちは、自分たちの地域だけでなく、世界中で前向きで持続可能な変化をもたらすことに参画します。

私たちは皆、全人類のために、より良い世界を発展させ、奨励し、提供するために共同で活動しているグローバルなワイズメンズクラブ国際協会ネットワークの一員であり、加盟クラブは、それぞれの地域社会のために積極的に前向きで持続可能な変化を希求します。

各クラブは、それぞれが奉仕する地域社会と同様にユニークであり、市民としての参加やコーディネートされた活動において独自のブランドを開発し、実践しています。IHQ のウェブサイトから抜粋したいくつかの例を以下に示します。



私たちのクラブの非公式なスローガンは  
"Service in Action" (行動する奉仕)です。



この度、下記の方々が ワイズメンズクラブ国際協会の 100 周年記念基金にそれぞれ 2,500 ドルの寄付をしてくださり、ワイズメンズクラブ国際協会の名誉会員の資格を授与されることになりました。

1. ハンク・ワルサー: 米国・サンタモニカ  
(100 周年祝賀チーム委員長)
2. S・T・タウミアン: スリランカ  
(元国際議員)
3. マメン・オーメン: インド・ケララ  
(南西インド区理事)
4. L・スリンバサン: インド・ムンバイ  
(ムンバイクラブ副会長)
5. フィリップス・K・チェリアン: インド・バンガロール  
(国際会計)
6. エドワード・オン: シンガポール  
(LTOD 国際事業主任、元地域会長)
7. 田中博之: 日本・東京都  
(ASF 国際事業主任、直前地域会長)
8. T・M・ジョース: インド・ケララ  
(次期国際会計)
9. 世界 YMCA 同盟: スイス・ジュネーブ  
(代表・世界 YMCA 同盟総主事)
10. バブ・オーメン: インド・バンガロール  
(元地域書記)
11. アナンド・ジェイコブ・ベルギー: インド・  
チェンナイ  
(次々期国際議員)
12. アニー・ジェイコブ: インド・チェンナイ  
(地域メネットコーディネーター)
13. ジェニファー・ジョーンズ: オーストリア・  
アデレード  
(直前国際会長)
14. J・A・ジャヤラル: インド・マーサンダム  
(南西インド区・第 3 部長)

会員、友人、クラブの皆さまにおかれましては、ワイズメンズクラブ国際協会 100 周年記念基金への寄付と名誉会員になることをどうぞご検討ください。



名誉会員についての詳細は、  
[ここをクリックしてください。](#)



ご存知ですか？

1 月の国際会長ニュースでご紹介いたしました「国際協会情報ナゲット」は、そのときには 20 個でした。今、IHQ のウェブサイトには、50 個の情報が掲載されていますので、ぜひご覧ください。これらは、国際協会の様々なことがらを素早く知るのに最適なツールです。  
制作者のコシー・マシューと発行者のインド・バンガロール第 2 部に感謝いたします。

[ここをクリックしてご覧ください。](#)

Tell a Good Story.



## 助けるために全力を尽くして

新型コロナウイルスがラトビアや世界中で発生してから1年が経ちましたが、その戦いは、決して楽なものではありませんでした。そんな中でも、リバナラブダリバ・ワイズメンズクラブは、今日も活動を続けています。国の規制が厳しくなる一方なので、多くの重要なことができませんが、解決策や機会を探している私たちには希望が残っています。そして、それらを見つけています。私たちの目標は、特定のグループの人々ではなく、特定の瞬間にそれを必要とするすべての人々を助け、世話をし、サポートすることです。私たちの仕事は、多岐にわたっていますが、その一例をご紹介します。



歩行用の松葉杖を私たちの倉庫に用意し、必要としている人に提供しています。家族や住民は、できれば短期間しか必要としないものにお金をかける必要がありません。また、医療機関と連携し、寝たきりの方などをサポートすることで、回復を促すことができます。病人が家の外に出て新鮮な空気を吸い、夕日を楽しみ、鳥のさえずりを聞くことができるように、必要とされていた車椅子を提供し、さらに3人の人々の生活が明るくなりました。

リバナ幼稚園を訪問し、さまざまなおもちゃを寄付して、子供たちの庭での日常生活を改善し、小さな子供たちの心に喜びを与えました。クラブにとって重要なプロジェクトは、成人になって孤児院を出な

ればならなくなった青年のためにアパートを用意することでした。



国や世界の現状の中で、私たちは積極的に活動を続け、ポジティブな姿勢を維持し、すぐにすべてが元通りになり、通常の生活リズムに戻れることを願っています。この1年は、決して楽なものではありませんでしたが、振り返ってみると、私たちは、誇りと満足を感じています。そして、より良い状況下では、さらに多くのことができるようになり、助けになり、役に立つことができると信じています。私たちは休むことなく、仕事を続け、「良いこと」を増やしていきます。

アイナ・ミラジェワ リバナラブダリバ・ワイズメンズクラブ会長

Tell a Good Story.



このスペースは、あなたが「良い話を伝える」ために用意されています。これまでに、デンマーク、カナダ、インド、ロシア、トーゴ、日本、コンゴ、香港、ブルガリア、ラトビアのストーリーを紹介してきました。

現在、ワイズメンズクラブ国際協会には72の国が参加しています。

成功した取り組みや「行動する奉仕」について、多くの物語があるはずです。

必要なのは、英語で250から300語の言葉と、そのストーリーを説明するためのいくつかの写真です。

表現を磨いたり、文法を整えたりするのは編集者の仕事ですので、心配はいりません。

投稿は [ipeditor@ysmen.co.uk](mailto:ipeditor@ysmen.co.uk) まで。

(日本の方は、日本語版編集者の田中博之(東京多摩みなみ)までご連絡ください。英訳もいたします。)

Tell a Good Story.

